

秘

情報委員會七・二六 情報第八號

一、外國無電局放送「ニュース」(二十五日)ノ三

一、マニラ (K・A・A・)

東京發ニ曰ク

二十五日夜ハルビン發同盟通信ニヨレバ黑河附近ニ於テ蘇國々境監視兵ノタメ、ガ砲撃ヲ受ケ拿捕サレタリトアリ、爲メニ東京政府當局ハ日蘇國交ガ宛モ北支ニ於ケル日支兩軍ノ衝突ト時ヲ同ジウシテ再ビ緊張ヲ見ルニ至ラザルヤヲ恐レ詳報ノ到着ヲ待チツ、アリ

二、上海 (X・G・X)

北平發

北支事變ニツキ參謀次長、ハ當地支那側當局者ト數次ニ巨ル協議ヲ遂ゲ、今朝五時半發列車ニテ當地出發長辛店經由復命ノタメ南京ニ向ケ歸途ニ着ケリ、コノ出發ニ先立チ宋哲元ハ重ネテ熊參謀次長ト會見時局問題ニツキ熟議ヲ遂ゲタル後、南苑ニ赴キ部下軍隊及ビ兵營ヲ視察セリ、宋哲元ハ午前七時北平ニ歸リ、及ビ其他幕僚ヲ召集シ會議ヲ行ヒタルガ其ノ内容ハ嚴秘ニ附サル、然シ北平ノ情勢ハ外面的ニハ漸次平常ニ復シ、市内ニ於ケル掩護土囊及ビ防禦構築ノ大部分ハ撤去セラレタリ、戒嚴令ハ未ダ撤去セラレザルモ、通行者ニ對スル身體検査ハ緩和サレテ深夜ノミトナリ、劇場等ハ午後十一時頃迄興行ヲ許

107

1

サル、蘆溝橋及び其ノ附近ニ於ケル日本軍ハ未ダ原駐地ニ復セザルタメ依然支那側ノ不安ハ除カレザルモノ、如ク、宛平、蘆溝橋等ハ未ダ日本軍ニ占據サレ、同地方ニテハ日本軍ハ支那農民ヲ強制徴發シテ新防禦陣地ノ増築ヲスラナサシメ居ルヲ以テ容易ニ撤退セザルモノ、如シ、支那巡警、ハ昨日北平南郊巡視中突如日本軍歩哨本部ニ連行サレ三十七師ノ動靜ニツキ訊問ヲ受ケサルガ間モナク放免サレタリ

上海ルーター電報ニ曰ク

當地ニ於ケル日本陸戦隊宮崎水兵拉致事件ニツキ日本當局ハ事件ヲ荒立ツル意志ナキ旨上海市政府ニ確言シタルタメ南京政府モ漸ク安堵シタルモ尙一般ハ事件ノ成行ヲ深ク注目シツ、アリ、

蘆溝橋事件ニツイテハ戰鬪中止ノ報ニ一般ハ平和的解決ノ希望ヲ抱クニ至レリ、而シテ北支ニ於ケル七月十一日及び十九日ノ協定ノ内容未ダ公式ニ發表セラレザルモ南京政府筋ハ該協定ハ支那ノ主權ニ關スル條項ヲ含マザルモノト確信シ居リ、七月十一日ノ協定ハ異議ナク支那側ノ受諾シ得ベキモノト考ヘ居レリ、但シ七月十九日ノ協定ニツイテハ更ニ交渉ヲ要スルモノト認メ居ルモノ、如シ

各國大使ハ何レモ暑休ヲ切上ゲ南京ニ急行支那政府ト接觸ヲ保チツ、アリ、英國大使ヒユーゲツセンハ眞先ニ北載河ヨリ南京ニ歸リ、續イテ蘇國大使ボゴモロフ及び米、伊、獨大使モ南京ニ歸還セリ

米國大使ネルソン・ジョンソン本日午後蔣介石氏ト長時間ニ亘リ會談、北支情勢ニツキ意見ノ交換ヲ遂ゲタリ

天津電ニ曰ク

日本運送船三隻今朝太沽ニ到着、主トシテ軍需品ヲ積載シ來レリ

北平電ニ曰ク

冀察政府、ハ今朝南京ヨリ來平、宋哲元ニ對シ北支事件ニ對スル南京政府ノ態度ヲ報告セリ

參謀次長熊斌ハ今朝北平ヨリ南京ニ歸レリ、宋哲元及二十九軍首腦部トノ會談ノ結果ヲ報告ノ答

北平電ニ曰ク

北平國立大學教授連ハ宣言書ヲ發シ今回ノ事變ノ責任ハ一ニ日本側ニ在ルモノトシ、若シ日支開戦ノ場合ハ支那ハ人權、自由及び世界平和ノタメ國ヲ擧ゲテ戦フベク、最後ノ勝利ノ支那側ニ在ルコトハ何人モ疑ハザル所デアルト論ジ、且ツ日本及び全世界ノ智識階級ニ向ツテ日本軍ノ恐ルベキ冒險ヲ阻止センコトヲ訴ヘ居レリ

740

108



情報委員會七・二六 情報第九號

—サイゴン放送電報—

(熊本遞信局)

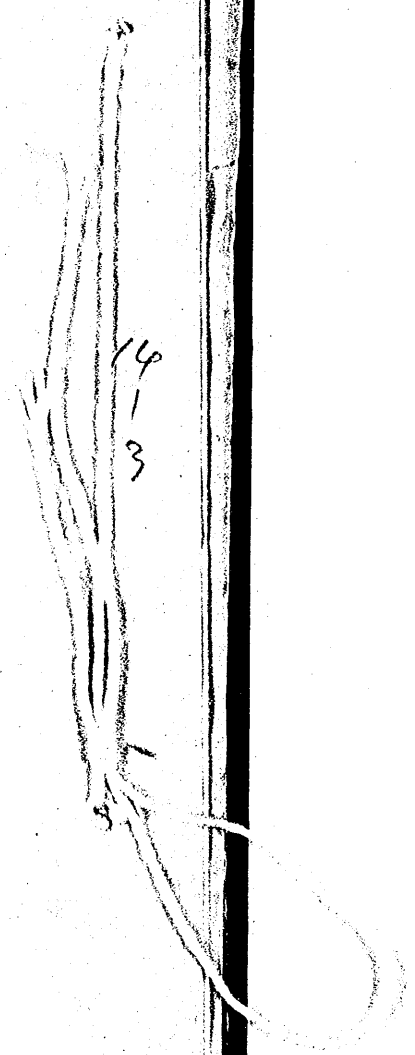
一、支那電 日本ノ一陸戰隊員ガ上海ニ於テ七月二十四日夜拉致サレタ、東京ニ新ナル興奮ガ起ツタ、

日本海軍當局ハ支那當局ニ對シ搜查ニ協力ヲ求メタ、日本ハ反日テロリスト團ニ依ル拉致

ト看做シテキル、

一、三部隊ノ日本軍ハ太沽ニ到着シ塘沽ニ向ツタ、

一、上海日本紙ハ蘇聯邦ハ日支全面的衝突ノ場合ニ支那ヲ援助スルコトヲ約シ、蘇聯大使館附  
武官ハ此ノ援助ヲ具體化スル爲ニモスコ―ニ出發シタト確言シテキル、



741